

## シリーズ「放課後子ども教室推進事業」 初中教育ニュース（初等中等教育局メールマガジン掲載）

### 【第54回】

子ども教室から広がる「わ」

宮崎県延岡市立名水小学校長 三 明 誠

「見てん、ピーナッツが入っちゃったよ。」と慌てて図書室に入ってきた1年生の手の中のものを見た上級生が、「エッ、もう掘ったつけ。」と聞く。「落花生が出ちよったき、つまんだらあったとよ。」と大発見を喜ぶ1年生。上級生も、さっそく畑に直行です。

ここには全ての学年の子どもがいますが、時間割があるわけでもなく、だからといって家庭のように全く自由というわけでもない、不思議な場所です。保護者や地域住民からなるジョイサポさん（安全管理員）は、子ども達が小さいころからの顔見知りです。このジョイサポさん方に見守っていただく中で、上級生と下級生が様々な活動をしながらか放課後を安全に過ごしているのが、「名水っ子放課後子ども教室」です。「地域の子どもは地域で育てる」という気持ちで、この見守り活動は、地域にもどんどん広がっています。

子ども達は、学級での下校指導が終わると、まず、この放課後子ども教室に向かいます。そして宿題を済ませると、体育館や運動場に行き、鬼ごっこやドッジボールなどをして遊びます。段ボールを使って校舎いっぱい段ボールハウスを作ったこともありました。ジョイサポさんが竹を切ってきてくれたときは、大根玉を飛ばす鉄砲を作って遊びました。実はあの落花生もジョイサポさんたちと一緒に植えたものなのです。

それから、近くにある宮崎大学水産実験所の先生からクサフグのお話も伺いました。それがきっかけで、5年生はメダカの代わりにクサフグの卵を使って理科の学習をしました。道德の時間等に学んだ相手を思いやる心の実践の場も、この放課後子ども教室です。

月1回定例の校区内会議には、放課後子ども教室スタッフ、行政担当者とともに学校職員も参加し、ジョイサポさんとの情報交換をします。ここで課題が見つかったら、学校でも指導を進めるなど、互いに支え合って地域の子どもを育てています。

（初中教育ニュース（初等中等教育局メールマガジン）第180号に掲載）